

J-FORCE STUDY News Letter

J-SUPPORT and Forth agent Olanzapine Resist Cisplatin Emetogenesis.

参加施設の先生方

J-FORCE試験では大変お世話になりありがとうございます。試験開始から1ヶ月半経過しました。症例登録などの進捗状況は事務局からweeklyで配信させていただいてますが、制吐療法に関するトピックや全体の進捗状況などをNews Letterとしてマンスリーで配信させていただきます。第1回は、J-FORCE STUDYを計画するベースになったP2についての話題です。

TOPIC その1

NCCN Antiemesis ガイドライン2017に国立がん研究センター中央病院主導で行われたrP2 (5mg vs 10mg) の結果が引用されました。

AE-7 continued

- **New: Consider 5 mg dose for elderly or over-sedated patients.** Hashimoto H, Yanai T, Nagashima K, et al. A double-blind randomized phase II study of 10 versus 5 mg olanzapine for emesis induced by highly emetogenic chemotherapy with cisplatin [abstract]. J Clin Oncol 2016;34: Abstr 10111). [See Pharmacologic Considerations for Antiemetic Prescribing \(AE-B\).](#)

ガイドラインコメント：高齢者や鎮静が強い患者には5mgを考慮。鎮静は2日目ピーク、その後時間とともに自然軽快する。

CINVに対するオランザピンの用量は、NavariらがP1で報告した10mgが今日まで引き継がれ国際標準用量になってますが、sedativeになることが問題です（Aapro先生によれば1割は寝たきりになるそうです）。日本のpracticeでは5mgが妥当、というのが現場の印象ですが、科学的に検証したのが本試験です。この試験は5mgと10mgを二重盲検ランダム化で比較した世界で初めての試験で、昨年のMASCCでも注目されていました。現時点では、“10mgが標準で5mgはoption”、という位置付けになってますが、J-FORCE STUDYによって、“5mgが推奨で10mgがoption”、とひっくり返せればと考えています。矢内先生、論文楽しみにしています！



J-SUPPORT
Japan Supportive, Palliative and
Psychosocial Oncology Group

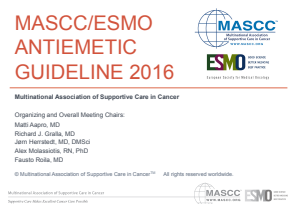
J-SUPPORTホームページ

<http://www.j-support.org>



NCCNガイドラインホームページ

https://www.nccn.org/professionals/physician_gls/f_guidelines.asp



MASCC/ESMO
ANTIEMETIC GUIDELINE 2016

<http://www.mascc.org/antiemetic-guidelines>



JASCCホームページ

<http://jascc.jp>

TOPIC その2

KCOG P2および参加施設から発表の制吐剤試験がMASCC ガイドラインupdateの論文に引用されました。

clinical practice guidelines

Annals of Oncology 27 (Supplement 5): v119-v133, 2016
doi:10.1093/annonc/mdw270

2016 MASCC and ESMO guideline update for the prevention of chemotherapy- and radiotherapy-induced nausea and vomiting and of nausea and vomiting in advanced cancer patients

F. Roila¹, A. Molassiotis², J. Herrstedt³, M. Aapro⁴, R. J. Gralla⁵, E. Bruera⁶, R. A. Clark-Snow⁷, L. L. Dupuis⁸, L. H. Einhorn⁹, P. Feyer¹⁰, P. J. Hesketh¹¹, K. Jordan¹², I. Olver¹³, B. L. Rapoport¹⁴, J. Roscoe¹⁵, C. H. Ruhlmann³, D. Walsh¹⁶, D. Warr¹⁷ & M. van der Wetering¹⁸ on behalf of the participants of the MASCC/ESMO Consensus Conference Copenhagen 2015*

KCOG P2論文がNavariのP3とともに新しい制吐療法として引用されました。また、参加施設から発表された制吐剤試験の論文も引用されています。

2016年にMASCC/ESMOガイドラインが改定され、その改定についての論文がAnnals of Oncologyに発表されました。標準制吐療法＋オランザピン5mgを報告したKCOG（関西臨床腫瘍研究グループ）試験に加え、J-FORCE STUDY参加施設から発表されている論文も引用されています。

21) Abe M, Hirashima Y, Kasamatsu Y et al. Support Care Cancer 2016. (KCOG: 静岡がんセンター、関西ろうさい病院、大分大学、久留米大学、静岡赤十字病院)

31) Yahata H, Kobayashi H, Sonoda K et al. Int J Clin Oncol 2016. (九州大学)

32) Ito Y, Karayama M, Inui N et al. Lung Cancer 2014. (浜松医大)

34) Nishimura J, Satoh T, Fukunaga M et al. Eur J Cancer 2015. (大阪大学)

第2号のお知らせ

次号 (Vol. 2) では、本試験の試験薬制作についてお知らせする予定です。

試験では大変お世話になりますが、引き続きよろしく願い申し上げます。

J-SUPPORT 1604

研究代表者 静岡県立静岡がんセンター婦人科 安部正和

E-Mail: ma.abe@scchr.jp

研究事務局 国立がんセンター中央病院薬剤部 橋本浩伸

E-Mail: hhashimo@ncc.go.jp

静岡県立静岡がんセンター 研究補助員 葛貫ふみ代

E-Mail: f.tsuzuranuki@scchr.jp

試験開始から3月30日までの進捗状況

全体登録数 33/690：静岡がんセンター 22、埼玉がんセンター 3、国立がん研究センター中央病院 2、神戸低侵襲がん医療センター 2、岐阜大学 1。

IRB承認施設：北海道がんセンター、市立函館病院、函館中央病院、群馬県立がんセンター、埼玉県立がんセンター、静岡がんセンター、国立がん研究センター中央病院、国立がん研究センター東病院、東京医科大学、厚生連高岡病院、岐阜大学、和歌山県立医大、関西ろうさい病院、尼崎総合医療センター、神戸低侵襲がん医療センター、高知医療センター、四国がんセンター、大分大学、九州大学。

